中京大学
CHUKYO UNIVERSITY

地方創生★政策アイデアコンテスト2020

# 牛乳de地方創生
# 喉も地域経済も潤す半田の牛乳

半田市 観光マスコットキャラクター
だし丸くん


【今井ゼミ】
浅井 紗耶可　新美 啓人
太田 壮一郎　水谷 記子
知花 潤也
（五十音順）

# 隠れ酪農王国　半田市

**人口** 約11万9千人（2020年9月現在）

**実は全国有数の畜産先進地域でもある**

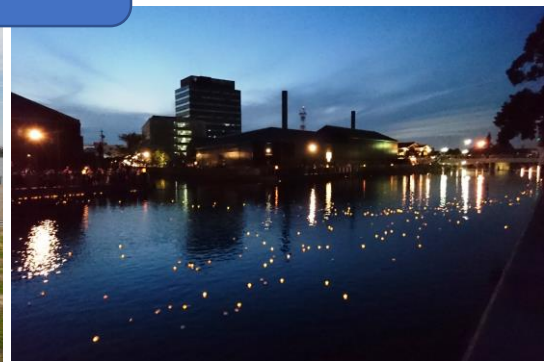
**特徴**
- 酒、酢などの醸造業が盛ん
- 近年は畜産にも力を入れている

【矢勝川沿いの300万本の彼岸花】半田市、CC-BY４．０国際（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

【半田赤レンガ建物1】半田市、CC-BY４．０国際（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

**半田市**

【七本木池公園1】半田市、CC-BY４．０国際（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）



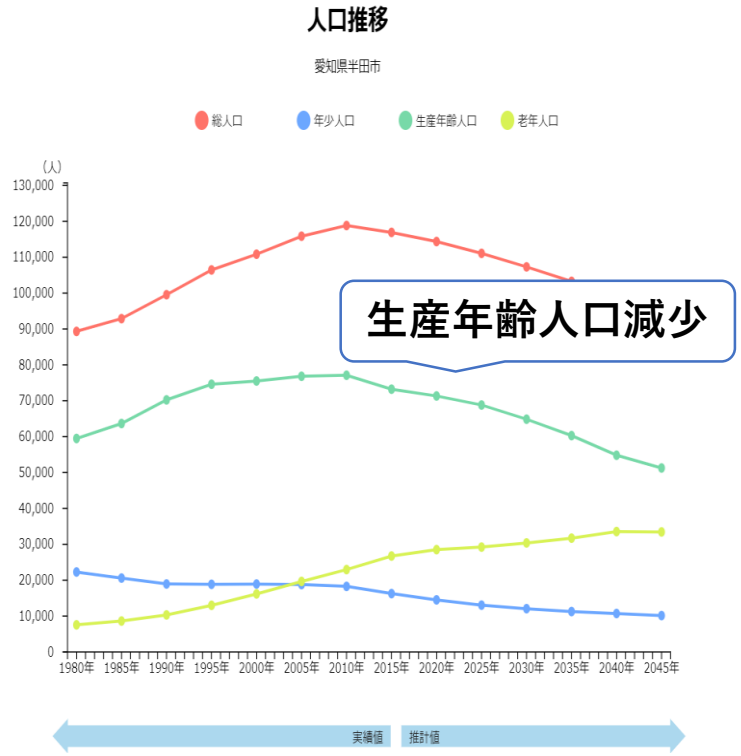
【半田運河canal night5】半田市、CC-BY４．０国際（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

平和牧場Webサイト
https://heiwabokujyou.jp/

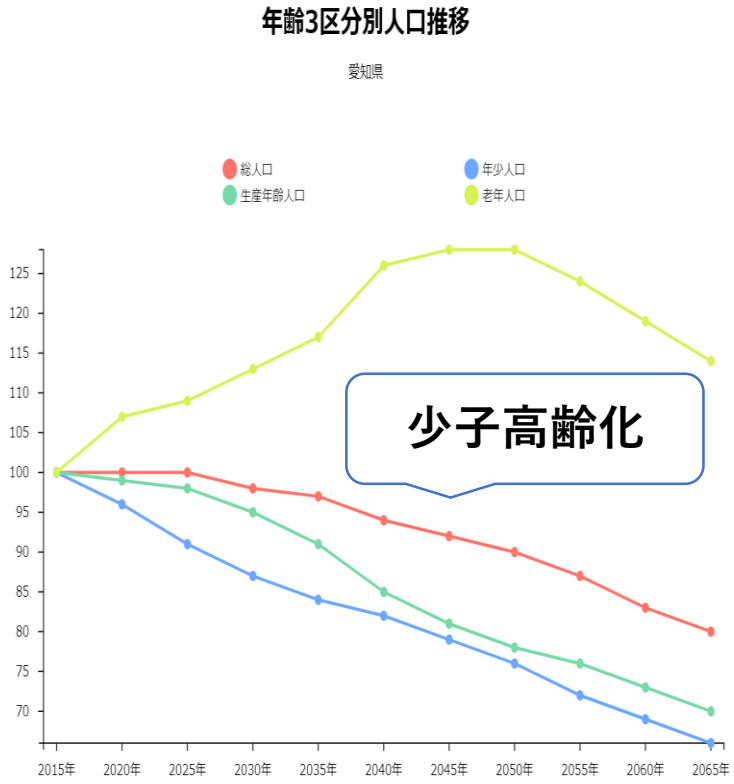
江戸より古くから酒･酢などの醸造業や海運業などで栄え、知多地域の政治･経済･文化の中心都市として発展してきた。半田市は醸造業だけではなく、畜産にも力を入れている。2019年9月時点で乳牛・肉牛ともに飼養頭数の全国平均よりも上でトップクラス（半田市公式シティプロモーションサイトより）

# 半田市の人口について

RESAS 人口推移




RESAS 年齢別人口推移




例年総人口は減少傾向にある中、
老年人口だけが増加傾向にある。

老年人口が年少人口の2 倍近い。

年少人口は愛知県の平均よりも 1%低く、
老年人口は愛知県の平均よりも 1%高い。

生産年齢人口、
年少人口共に減少していくと予測される。

現時点で農業では担い手不足の
問題が生じている。

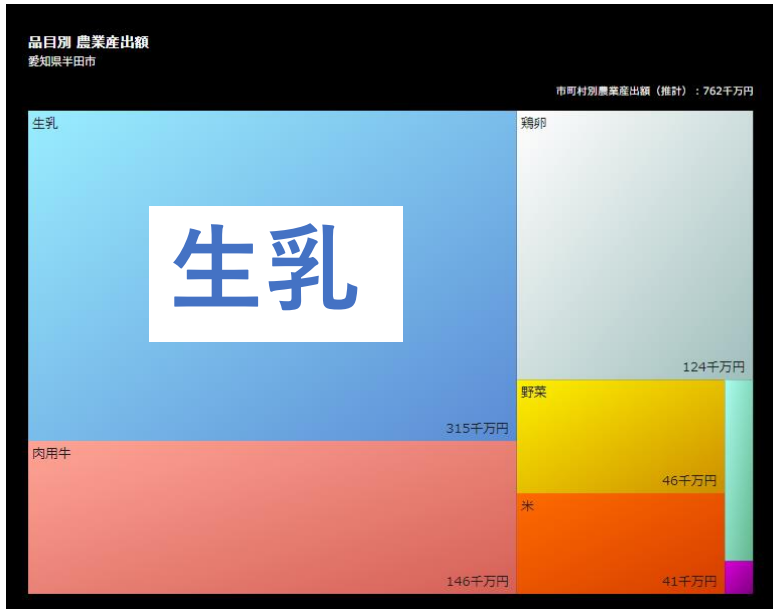
さらに、今後
生産年齢・年少人口が将来にかけて
減少していくとなると、
大きなダメージとなりうる。

＊年少人口:0～14 歳 生産年齢人口:15～65 歳 老年人口:65 歳以上

# 問題意識 - 半田市農業の現状① -

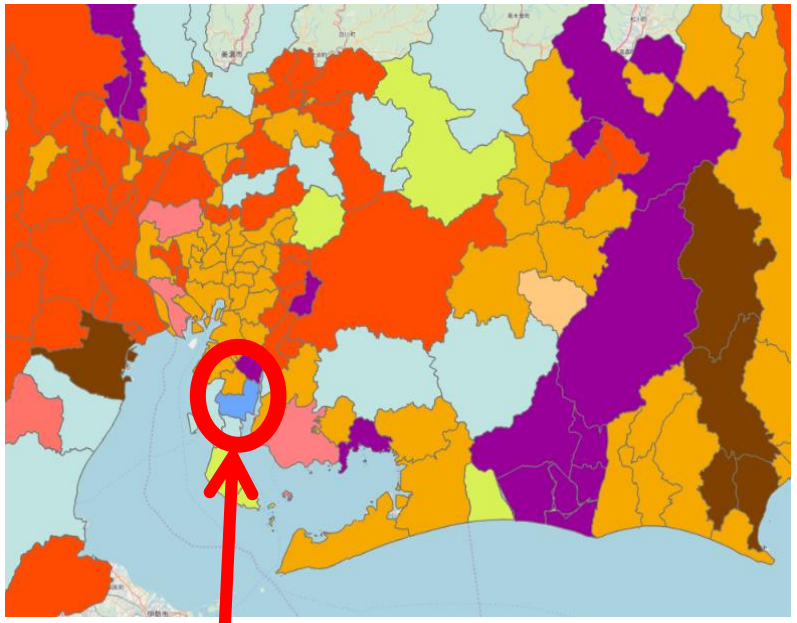
RESAS

農業出荷額内訳



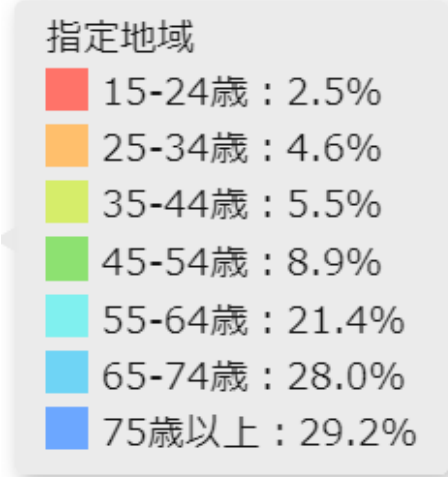

RESAS

農業の構造



RESAS

農業就業人口の年齢構成2015




12.6%

中央値64~75歳

78.6%

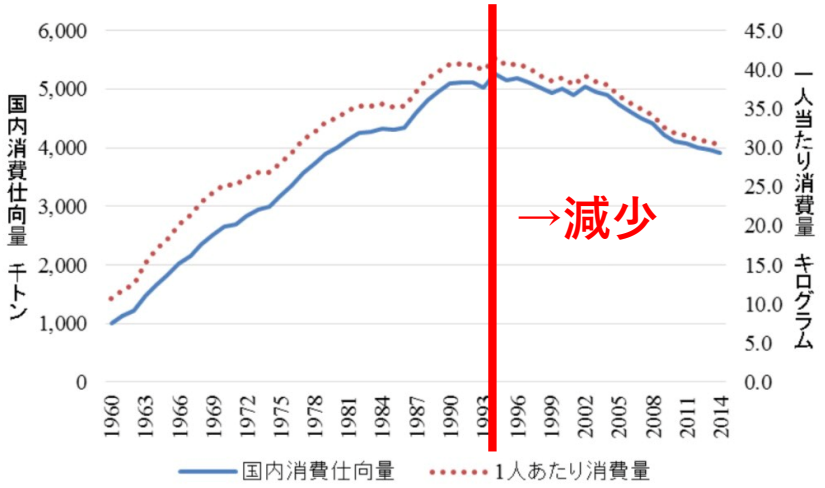
★現状（１）
→半田市の農業生産において、
生乳は大きな割合を占め、
農産業の中核を担っている。

★現状（２）
→農業生産額のうち、生乳が一番
大きな額を占めているのは、
愛知県とその周辺の市町村を
含めても半田市のみである。

★現状（３）
→農業就業者の高齢化が
進行している。

# 問題意識 - 半田市農業の現状② -

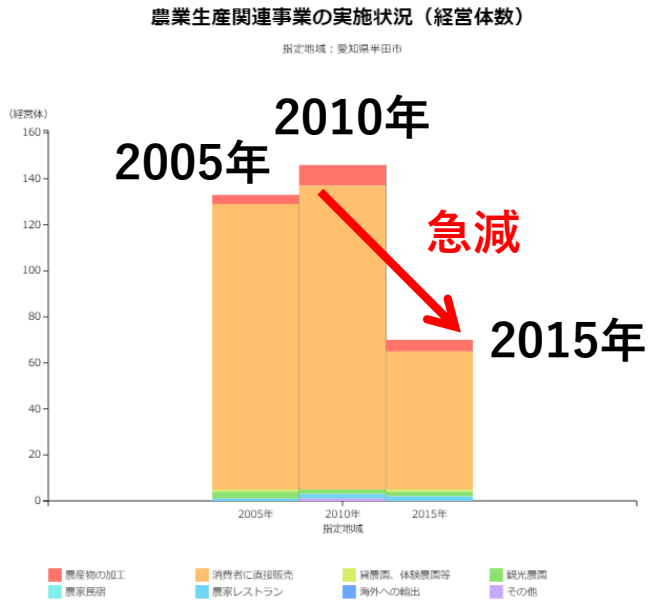
飲料向け牛乳の消費動向




佐藤秀保「我が国における生乳・乳製品市場の数量経済分析」（東京大学大学院農学生命科学研究科博士論文、2017年）4頁より引用。

RESAS

農業生産関連事業経営体数




(1)～(5)の現状をふまえて。
・地域経済の中核となっている生乳産業の持続的発展を促進するためにも、6次産業化等により安定して稼ぐことができるようにすることが重要。

牛乳の消費量減少をふまえ、生産面では地域色を持たせた食品開発、商品の高付加価値化の促進、販売面では 他社製品との差別化が求められる。

★現状（４）
→飲料向け牛乳の消費量は減少傾向にあり、市場も縮小傾向にある。

★現状（５）
→2010年～2015年にかけて「消費者に直接販売」する経営体が132→60と半分以下に激減した。

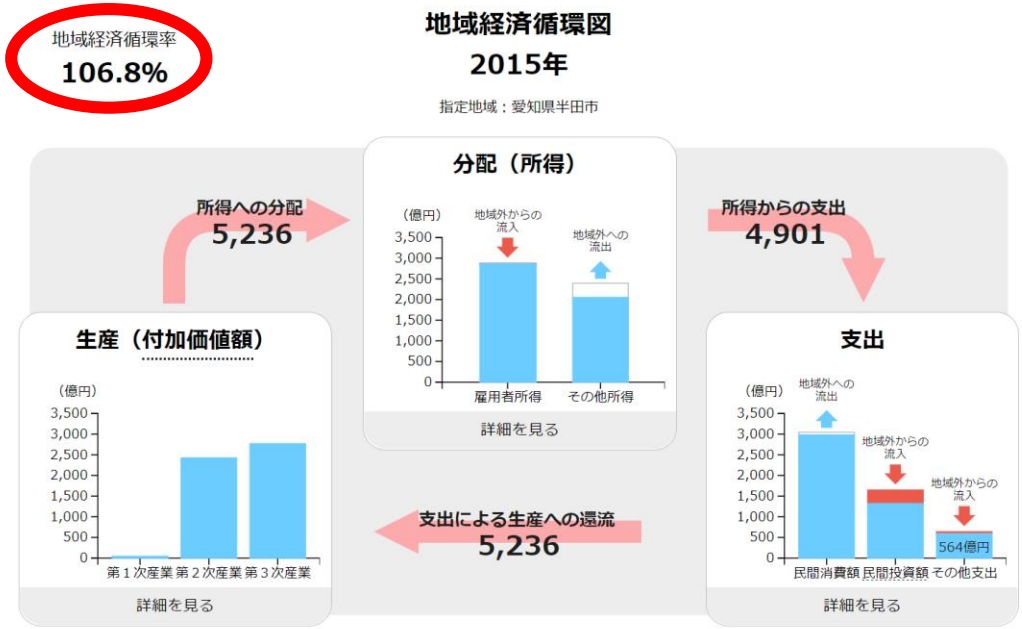
★課題（１）
→半田市の農業の中核である生乳産業を継続的に支えていくきっかけが必要。

# 問題意識 - 半田市の経済循環の現状 -

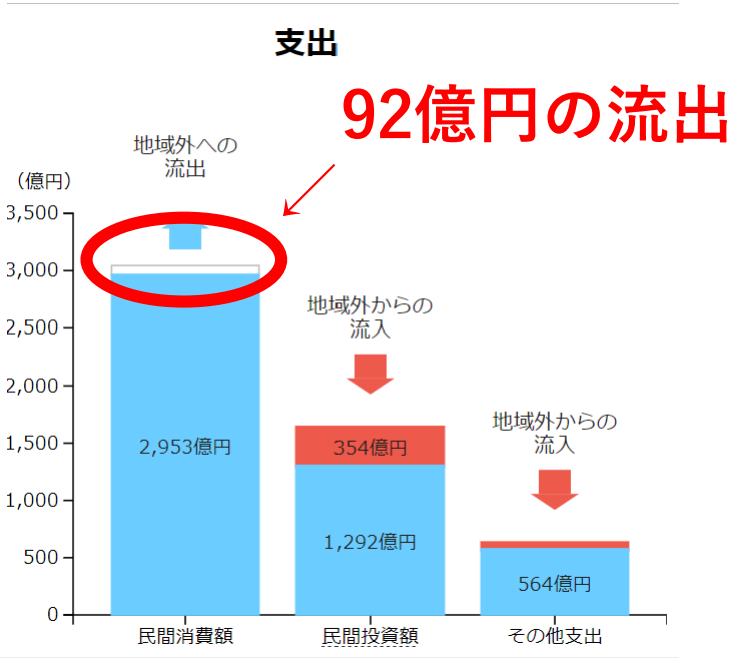
RESAS

地域経済循環率

地域経済循環率
106.8%




RESAS




| | 民間消費 | 民間投資 | その他支出 |
|---|---|---|---|
| 支出流出入率 | -3.0% | 27.4% | 13.0% |
| 支出流出入率順位 | 988位 | 128位 | 237位 |

★半田市の経済循環（１）
→半田市の地域経済循環図を見ると、
地域経済循環率が106.8%と一見良好に見える。

★半田市の経済循環（２）
→支出の面を見てみると、民間消費の資金流出入率が▲３.０％となっている。
これは全国1719市区町村のうち988位となっており、地域住民の消費を地域内で吸収することができていないことを示している。

市中心部の空洞化や、近隣市町村における大型ショッピングモールの増加によるもの。
Ex.イオンモール常滑
イオンモール東浦
アピタ阿久比店

# 問題意識 - 半田市の現状 - 再開発の頓挫

2001年～2006年にかけて、市中心部の再開発を行ったが頓挫。
・中心市街地付近の事業者数は、全事業所、卸売り・小売業ともに減少傾向。
　閉店や移転などによる撤退が多くみられる。

現在 半田市中心市街地活性化ビジョン として

・きれいに整った駅前広場、道路、公園やクラシティなどを活用しながら土地利用を活性化＋交流や賑わい創出といったソフト面の取り組みも充実させることにより、新しい時代にあった「にぎわい」の創出に取り組んでいる。

**・ビジョンの対象エリアは、駅周辺。**
→区画整理により区画道路、街区公園が整形化されたが、区画整理の換地が終了しても建物敷地として活用されていない、低未利用地が多く存在している。

**★課題（２）**
**→土地活用の活性化、公共空間の活用の仕方の改善が求められる。**

# 半田市の牛乳の優位性

① 広大な**土地**がある
→都市部ではできない**大規模**な酪農が可能
新規参入が難しい

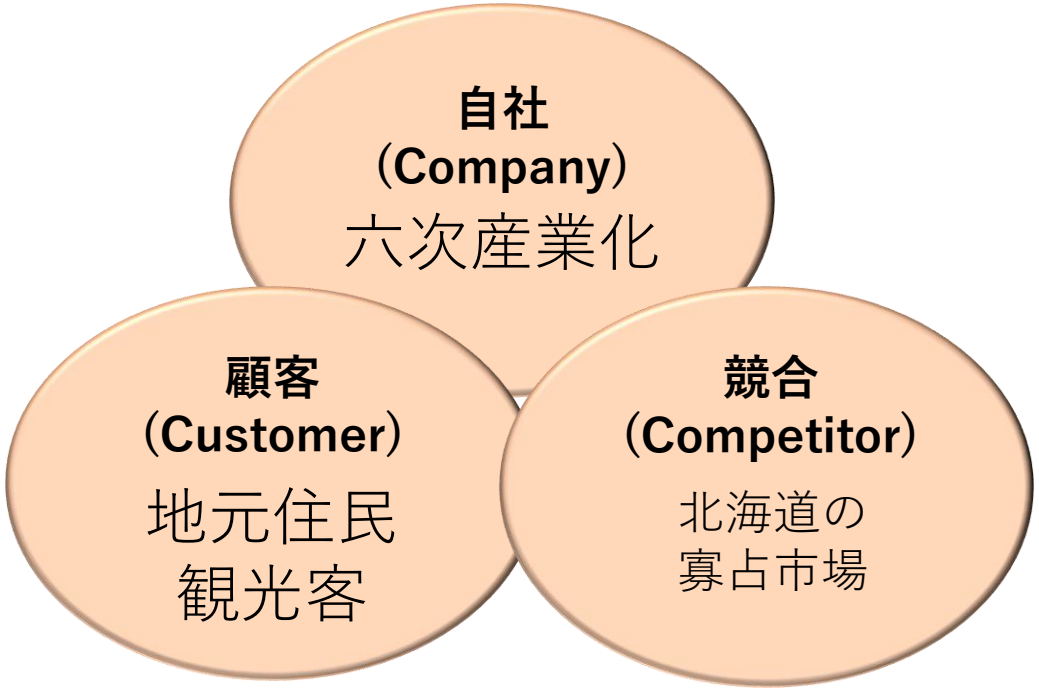
② 愛知県における1戸当たりの飼育数は乳用牛**第1位**
（愛知県の1戸当たりの飼育頭数は全国4位！）

③ 大規模化が進んでいる
→大規模層ほど生産**コストが低下**する傾向

④ 近隣に大消費地である名古屋市がある
→一定の**需要**が見込まれる。**近郊農業**が可能

**新規参入には、**
**多額の費用と広大な土地の確保**
**が必要であり難しい**
↓
**半田市は酪農の基盤が**
**できている**
↓
**牛乳を使うことは**
**優位性につながる。**

# ３C分析　～半田市の牛乳～




- 六次産業化と鮮度の良さを特徴とし、半田市の牛乳をブランド化
- 地元住民に優先的に販売 → 地産地消
- 北海道の牛乳に対して、付加価値をつけることで対抗

北海道の生乳の全国シェアは
55.4%
(2019年度)
(出典：農林水産省 牛乳乳製品統計)

# ４P分析　～半田市の牛乳～

| 製品 (Product) | 価格 (Price) |
|---|---|
| ・ブランド化した牛乳を使用したチーズや濃厚ソフトクリーム等の乳製品<br>・鮮度の良さと生乳に近い濃厚なコク<br>・地元の高校生が考案した商品 | × |
| **流通 (Place)** | **プロモーション (Promotion)** |
| ・鮮度を保つため迅速な輸送<br>・カフェでのみ提供<br>(地元スーパー等の販売はなし) | ・市の広報<br>・カフェのSNS<br>・高校生による情報発信<br>(半田農業高校、半田商業高校) |

- カフェでしか飲むことができない
  → カフェに付加価値
  → 確実な販売・提供
- カフェを立地の良いクラシティ半田に指定
  → リピーターを増やす

# 展開拠点 - クラシティ半田 -

・市街地再開発事業で建設された
・低階層に複合商業施設や市営駐車場、
　高階層は分譲マンション
・知多半田駅の東側に位置し、
　3階部分が駅と連絡通路で直結

## ＜クラシティの魅力＞

### 立地の良さ

・駅直結、駐車場完備で公共交通機関はもちろん、
　車でも足を運びやすく、立地の良さが魅力
・→地域の方はもちろん、市外・県外からくる方(観光客)にも優しい

### 市の方針との整合性

・半田市中心市街地活性化ビジョンでは、クラシティ近隣は活性化させたいエリアとされている
・→商工会議所の方針とマッチしており、協力を得やすい

### キャパシティーの広さ

・たくさんの人々を収容できるだけのキャパが備わっている。
・→市民は家族や友人との、くつろぎ・楽しみ・ワクワク、趣味や、
　文化活動を中心市街地に求めており、その場として相応しい

# - クラシティ半田の現状と課題 -

＜フロア状況＞

4F＆5F:駐車場

3F:市民交流センター　(空きテナント有)

2F:飲食店、眼科、学習塾　(空きテナント有)

1F:スーパーマーケット、銀行、ヨガスタジオ、観光案内など

＜実際に見た印象＞

テナントは少なく、来客数も寂しい。

好立地の割にはいま一つであり、施設周辺も含め活気が欲しい(課題)

→開拓の余地はある。魅力ある施設づくりで来客数や活気に繋げる

活用により
期待できる効果

・関係人口増加による、地域の活性化→市内での消費増加(魅力ある施設があれば尚更)
・雇用機会の増加
→副業や起業を考えている人は年々国内で増加しており、市外や県外から人が来ることも期待
・半田の未来を担う人材の育成
・土地主と民間業者、挑戦者間での「稼ぐ」仕組みづくり
・起業や事業スタートへのハードル低下(低予算で始められる)
・多様なつながりの創出(市街地活性化ビジョンにあり)

# 公共空間の再生 - エリアマネジメント -

**市街地で利用されていない土地の活用**

## エリアマネジメント

- 特定のエリアを単位に民間が主となり、まちづくりや地域の経営を積極的に行おうという取り組み。

*エリアマネジメントで可能になる事*

- エリアの中の景観づくり
- まちづくりにおけるガイドラインの策定
- 将来の計画などの制定
- 関係者の協議の場の設置
- 賑わいを生み出すようなイベント
- 防犯対策など

## 財政

**地域再生エリアマネジメント負担金制度**

→3分の2以上の事業者の同意のもと、市町村がエリアマネジメント団体が実施する地域再生に資するエリアマネジメント活動にかかる費用を、その受益の限度において事業者から徴収し、エリアマネジメント団体に交付する官民連携の制度。

現在では、民間主体や官民協働型のまちづくりへの期待から、大都市の都心部や地方都市の商業地、郊外の住宅地など、全国各地でこの取り組みが実践されている。
行政のコスト削減にも！

# 半田市牛乳事業の実行モデル案

- 酪農家だけでは負担が大きすぎるといった課題
- 酪農家だけでは半田市の牛乳のブランド化や、規模の大きい販路拡大手段は難しいといった課題

**多様な主体が関わることで**

**活動範囲が広がる！**

**生産農家・農協**

・牛乳の安定供給
・牛乳の鮮度向上

**半田市商店街連合会**

・運営主体として指示・統率

**運営等協力団体：NPO**

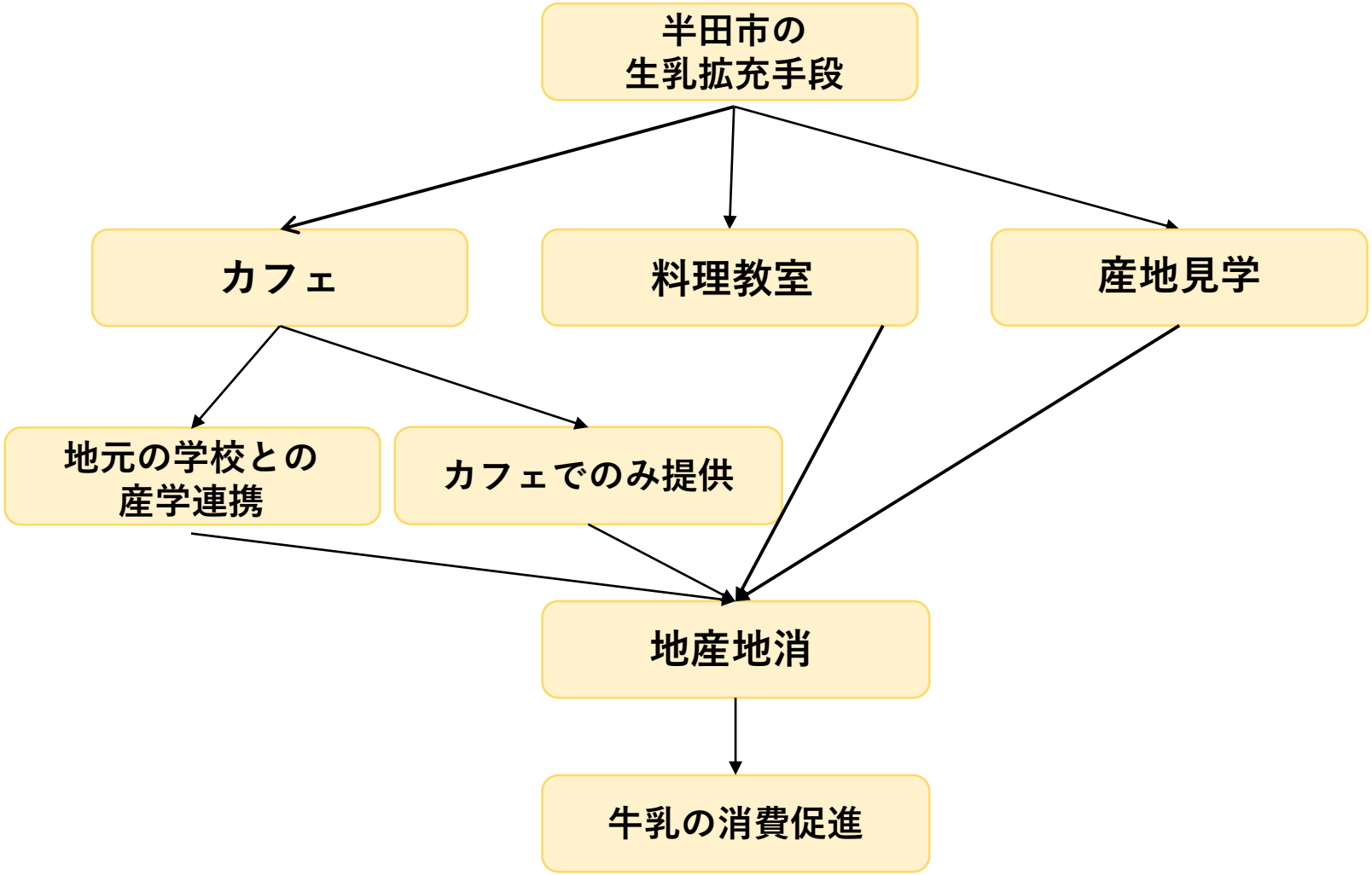
**行政機関**

・生産振興・販路開拓
(ふるさと納税)の支援

**高等学校等教育機関**

・搾乳
・牛乳を使用した加工品の開発

# 事業の展開と効果




- 六次産業によって生産した半田市の牛乳をカフェでのみ使用・提供し、地産地消に繋げる
- 農家×行政×NPO×高校生
  → 新しい形の牛乳
- 子供向け料理教室を開催することで牛乳に興味を持ってもらう
  → 将来の担い手の増加促進
- 産地見学で幅広いターゲットに酪農について知ってもらう
- ターゲット
  カフェ　：主に若年層
  料理教室：子供と親
  産地見学：幅広い年齢層

# 半田の魅力をクラシティから発信！

‣運営主体⇒半田市商店街組合

①カフェ

牛乳を使ったメニューを
カフェで提供

カフェを通して牛乳の魅力を発信し、牛乳の消費拡大を狙う！

農業高校には、牛乳の生産、加工品の製造
商業高校には、メニューの提案、牛乳を使用した加工品のアイデア提案において関わってもらう

酪農に関する実践的な学習によって、酪農従事者の育成につなげる！

# ◎学生と連携してカフェを経営することにあたって
# 半田市総合戦略との整合性

・「県内の農業高校、大学、農業大学校等で「就農」にする授業や半田市での新規就農をPRし、就農者の確保につなげる。」
・「地元の高校や大学、企業と連携し、まちのイメージ向上に取り組む。」
（半田市総合戦略より一部抜粋）

□県内の農業高校と商業高校と連携することで、カフェを半田市の魅力を伝える拠点にし、同時に就農者の確保につなげる！

酪農家
＋
農業高校

牛乳の生産 → 農業高校の現場実習の一つとして乳牛の世話と生乳の提供

実際に…半田市商店街連合会と連携し、日本酒の販売を行っている！

カフェ
＋
商業高校

牛乳の加工・販売 → 加工品の商品開発とメニュー考案

実際に…半田市商店街と連携し、商品開発や子供食堂への参画を行っている！

## ②体験教室

体験をメインとした
農業教育の実施

バター・ヨーグルトをつくる
体験教室、牛乳を使った料理
を作る料理教室など難易度別
に様々なコースを用意する

‣酪農に興味をもってもらうことが1番の目的！
‣また、自分で作ることで日常生活における牛乳の消費拡大も狙う！

## ③カフェ×体験教室

事例）ステーキショップA（キッズ★体験）、ファストフード店M（Mアドベンチャー）

×

カフェメニューを自
分で作って提供する
シェフ体験

‣カフェと体験を組み合わせることで職業体験と食育の両方を実現する！
‣また、カフェの来客層の拡大を狙う！

# 認知度の上昇・販路拡大の方針

市内から県、国へ

県産品フェア等

県産品ポータルサイト
での掲載

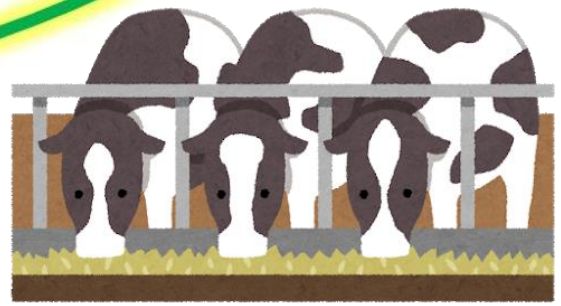
ネット販売

対面での販売だけでなく、
コロナ禍や時代に対応した
認知度上昇・販路拡大方法を目指す。

産地見学会

ふるさと納税返礼品

民間企業
との連携



# 半田の継続的な成長へ

・以上のように、空き施設を活用した生乳活用をすることで、
継続的な仕組みへと繋げていく

【工場夜景（11号地）】半田市、CC-BY４．０国際
（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

【半田赤レンガ建物3】半田市、CC-BY４．０国際
（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

【衣浦みなとまつり花火大会】半田市、CC-BY４．０国際
（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

【レンズボール彼岸花】半田市、CC-BY４．０国際
（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

町と産業の発展、人材の育成、
新たな仕事の創出につながり、
継続的に成長するための起爆剤となる。